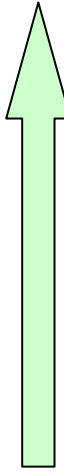


週	区分	実習のねらい	プログラム	指導者に必要なコンピテンス			実習で活用するツール・資料・教材	
				価値	知識	技術		
実習前課題・要望	基礎知識・契約	(1)事前学習 - 学生が行うこと 医療機関・施設の機能や目的の理解 医療機関・施設の法的位置づけの理解 医療機関・施設の地域における役割の理解 MSWの仕事の理解 社会福祉士の倫理綱領の理解 MSW業務指針の理解 (2)事前訪問 - 指導者が行うこと 実習中の決まりごとの説明を行う (基本的姿勢・挨拶・服装・時間・モラル・マナ-など) 守秘義務の遵守について説明を行う 実習課題の明確化と目標の確認を行い共有する 学生との信頼関係の形成に配慮する	(1)事前学習(再学習) 社会福祉の価値や目的、倫理綱領の再学習 ・実習施設 ・MSWの仕事 ・社会福祉士倫理綱領 ・MSW業務指針 医療の動向と機関・施設の法的位置づけ 実践技術 ・面接技術 ・コミュニケーション技術 (2)事前訪問 実習機関オリエンテーション ・実習目的の確認 ・実習契約 ・実習計画の作成		・基本的人権 ・プライバシー(個人情報)保護 ・秘密保持 ・生命倫理 ・クライアントの利益優先	・医療制度改革に関する知識 ・医療福祉に関する知識(業務指針、倫理綱領) ・面接技術 ・コミュニケーション技術 ・個人情報保護法に関する知識	・面接技術 ・コミュニケーション技術	・倫理綱領 ・MSW業務指針 ・病院パンフレット ・業務マニュアル ・実習プログラミングシート

<p>第一週</p>	<p>機関と業務の理解</p>	<p>(1)プログラム(実習内容)の確認 プログラムに関する説明</p> <p>スーパービジョン体制の理解</p> <p>(2)実習機関の理解 実習施設の理念と役割</p> <p>MSW の役割と特性</p> <p>地域や社会における役割</p> <p>(3)MSW が行う業務の理解 MSW の位置づけと存在意義の理解 療養型における組織・他機関から期待されるソーシャルワーク機能の理解 療養型における患者・家族から期待されるソーシャルワーク機能の理解 実践プロセスの理解 記録の重要性の理解 面接技法を理解</p> <p>(4)MSW の視点 対象者の理解 ・身体的、精神的、社会的側面での理解 ・個別化の理解 生活課題とニーズの理解 ・長期療養による経済的負担の把握と理解 ・ライフスタイルの変化によるストレスと受容過程の理解 ・生活者としての役割喪失という経験の理解 ・生活者としてのクライアントのニーズと、医療の場における患者としての立場との乖離の理解 チーム医療の理解 ・慢性期でのチームアプローチの目的、意義の理解 ・チームアプローチ内でのソーシャルワークの目的、役割の理解</p>	<p>(1)プログラム(実習内容)の確認 実習オリエンテーション ・事前学習の確認、実習プログラム提示 スーパービジョンの方法についての説明</p> <p>↓ 講義・参与観察 または 直接援助</p> <p>(2)実習機関の理解 施設における社会資源見学(デイサービスなど)、各部門の機能と連携について説明 ・医療区分に設定される対象疾患、治療内容等を説明。 疾病とソーシャルワーク、医療制度とソーシャルワークについての説明 社会構造の変化や地域から求められる組織内容について病院特性に合わせた説明</p> <p>(3)MSW が行う業務の理解 施設内におけるソーシャルワークの展開を説明 ・療養型における支援対象ケースと目的の理解</p> <p>・相談受付～インテーク面接におけるラポールの形成 契約 支援開始の流れの理解 MSW 業務への同行、経過記録の閲覧、事例説明 記録の意義、目的について説明と理解 実際に記録作成を行う 講義</p> <p>(4)MSW の視点 ソーシャルワークの展開における総合的理解 MSW 業務に同行し、理解を深める ・医療側面と生活側面の理解</p> <p>講義・事例により理解を深める ・長期療養による経済的負担の大きさや、クライアント、家族に与える影響の理解 ・経済的な負担軽減の為に利用可能な社会資源、活用方法、行政機関等との交渉や連携の方法について説明</p> <p>カンファレンス同席、他専門職との連携方法を説明 ・他専門職の専門性、達成目標等の理解 ・他職種連携及び MSW としてのコーディネーター的役割の理解 ・視点の共通点及び専門性の理解</p>	<p>・基本的人権 ・プライバシー(個人情報)の保護 ・秘密保持 ・生命倫理 ・クライアントの利益優先</p> <p>社会貢献 自己決定の尊重(説明と同意) 個別化 他専門性の尊重</p>	<p>・医療機関の種別や役割に関する知識 ・機関の機能と MSW の役割 ・チーム医療に関する知識 ・ネットワークに関する知識 ・記録方法に関する知識 ・疾病や障害に関する知識 ・生活モデル(生態学的視座) ・メディカル・スタッフに関する知識</p>	<p>・信頼関係形成(実習生との関係づくり) ・コミュニケーション技術(実習生への説明能力)</p> <p>・記述法 経過記録 要約記録 逐語記録 チームワーク調整能力</p> <p>面接技術</p>	<p>・個別実習プログラム ・倫理綱領 ・病院パンフレット ・組織図 ・カルテ ・カンファレンスシート</p> <p>・ケース記録 ・日報 ・月報 ・事例</p> <p>・他専門職の倫理綱領</p>
------------	-----------------	---	---	---	--	---	---

スーパービジョン

実践の理解	第二三週	<p>(1)ソーシャルワークの理解 社会福祉の価値、目的、倫理について MSW の立場から理解する クライアントとの信頼関係をつくる方法を理解する 疾病や障害受容について理解する 慢性疾患の発症要因・現在・予後という一連の理解 発症～慢性期に至るまでの疾病や障害受容の過程についての理解</p> <p>面接技法を学ぶ</p> <p>アセスメントの方法を理解する 慢性期におけるアセスメントの特徴についての理解</p> <p>初期の支援計画を立案する方法を理解する 援助課題の抽出、ゴール予測能力の習得</p> <p>問題解決のための社会資源や活用方法を理解する 各種制度の理解 フォーマルとインフォーマルな社会資源の特徴を理解</p> <p>記録の方法を理解する</p> <p>(2)クライアントの理解 クライアントのパーソナリティの理解 疾病や障害からくる諸問題の理解 患者、家族にとっての慢性疾患、障害を抱えるということに対する理解 生活課題の多様性の理解 個々のクライアントが持つ生活課題の個別性の理解</p> <p>患者や家族を取り巻く環境の理解 生活の場・役割の変化の理解 慢性疾患・障害がもたらすクライアントを取り巻く環境や状況の変化と、その影響の理解</p> <p>(3)連携 専門職としての連携 組織としての連携 地域性の理解 地域における病院機能の理解 地域における社会資源の理解（フォーマル・インフォーマル）</p>	<p>(1)ソーシャルワークの理解【一つのケースをととして】 講義、参与観察による価値・倫理の理解</p> <p>講義、事例、参与観察による理解</p> <p>講義による疾病理解及び障害受容段階の理解 ・他職種からの専門的所見の確認と理解</p> <p>講義、参与観察による面接技法の理解</p> <p>講義、事例、参与観察によるアセスメント方法の理解 ・入院相談時におけるアセスメント内容・方法の理解 ・入院～終結までのアセスメント内容・方法の理解</p> <p>講義及び自主学习、記録閲覧による社会資源理解 ・退院計画と支援計画の違いの理解 ・ロールプレイ、参与観察（初期支援計画立案の他の職種連携・情報共有・カンファレンスなど、課題抽出の為に MSW としての動きの理解）、ケースワークを実施して アセスメント・支援過程・初期支援計画を立案および記録を作成する</p> <p>講義及び自主学习、記録閲覧による社会資源理解 ・各種制度内容の理解 ・クライアントの制度利用状況及び把握及び、利用に繋げる支援の習得 ・慢性期におけるインフォーマルなサービスの重要性を理解</p> <p>講義及び自主学习、記録閲覧による社会資源理解 (2)クライアントの理解 講義、参与観察、ロールプレイ、ケースワークを実施し、アセスメント段階にて理解</p> <p>・過去～発症～現在に至るまでの生活状況の理解</p> <p>・クライアントを取り巻く環境とその関係性の再構築を適切に図るためのソーシャルワーク援助の理解 ・重度意識障害患者等、患者がクライアントとなりえないケースにおいて、緩やかな病状の進行や変化により家族が感じる心理的な不安、負担等を理解するとともに、ソーシャルワーク援助の意義を理解。</p> <p>(3)連携 地域における社会資源見学 各関係機関の機能と連携状況についての説明</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権 ・プライバシー（個人情報）の保護 ・秘密保持 ・生命倫理 ・クライアントの利益優先 </div> <p>受容・共感・理解 自己決定の尊重（説明と同意） ノーマライゼーション 自律・自立支援 エンパワメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの理論 ・ストレス ・ライフサイクル ・問題解決の視点 ・障害受容のプロセス理解 ・バイステックの7原則 ・アセスメント技法 ・社会資源の知識 ・ハイリスク・スクリーニング ・ストレス 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジカルアプローチ ・ナラティブアプローチ ・問題解決アプローチ ・信頼関係形成（クライアントとの関係づくり） ・マッピング技法 ・エコマップ ・ジェノグラム ・マネジメント技法 ・面接技法 ・ノンバーバルコミュニケーション ・モニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習プログラム ・倫理綱領 ・MSW 業務指針 ・フェイス・シート ・アセスメント用紙 ・マッピング用紙 ・ケース記録 ・記録用紙 ・プロセス・レコード ・各種ビデオ教材 ・各種報告書
		全般	S V	支持的理解のもと潜在能力を育てる	スーパービジョン	自己覚知・ラポール	個別・グループ